

開発途上国の女子中学生向けキャリア教育カリキュラムの開発～タンザニアを対象に

- 【代表者】 西崎 緑 島根大学 人間科学部 教授
- 【共同研究者】 平山 けい 松江工業高等専門学校 前校長
服部 真弓 松江工業高等専門学校 教授
山口 剛士 松江工業高等専門学校 准教授
岩瀬 峰代 島根大学 大学教育センター 准教授
小竹 雅子 島根大学 研究推進室 助教

【研究の目的と内容】

【研究目的】

開発途上国において社会的不利の状況にあるマイノリティ女性の生活改善と就業機会を増やすため、現地女子中学校の①キャリア教育カリキュラムと②現地教師による指導方法の2つを共同開発することを目的とする。具体的には、タンザニアのマサイ女子を教育するMWEDO女子中学校での教育実践の改善を現地教師とともに図ることを目指す。

【研究内容】

タンザニアの中学校教師2名を1月20日から31日松江市に招聘し、以下の研修を行いながら、実践可能なキャリア教育について検討した。

(1) 松江市立第二中学校において、英語教育と理科教育の授業見学を行い、生徒中心のアクティブラーニングの手法を学んだ後、キャリア教育の実践について担当教師からその内容を教授していただいた。またキャリアパスポートを閲覧し、その仕組みについて学んだ。

(2) 松江高専において、キャリア教育の基礎となる英語教育と環境教育（水浄化実験）を見学した後、MWEDO女子中学校の英語教育と環境教育改善案を話し合った。その後、島根大学において模擬授業を実施した。

(3) 島根大学キャリア担当教員から日本におけるキャリア教育の沿革と現状について講義を受け、文科省が進めるキャリア教育の要素と新学習指導要領のポイントについて共同理解を図った。

(4) 県立松江東高等学校及び松江商業高等学校の進路指導室において、担当教員から進路指導の実際を聞き取り、MWEDO女子中学校教師とともに、タンザニアで展開できるキャリア教育の可能性を絞り込んだ。

(5) 市内で女性の活躍モデルになっている企業（長岡塗装店、彩雲堂）の経営者から、女性の進路、働きやすい職場づくり、採用における重点、インターンシップの効用を聞き取り、生徒指導の在り方を検討した。

(6) 島根大学ですでに2年間研修中のアフリカの教師（マラウイ、ケニア）とのディスカ

セッションを行い、アフリカの学校での実践課題について検討した。

(7) 帰国前日に研修報告会を行い、プロジェクトメンバーとの意見交換を行った。

【研究の成果（本研究によって得られた知見、成果、論文、学会発表、外部資金への応募見込み等）】

【本研究によって得られた成果】

1. タンザニアを含む開発途上国の学校では、義務教育期間においても国家統一試験が課されるため、その準備のために多くの時間を必要とする。したがって、キャリア教育を別個に行うのではなく、アクティブラーニングおよびグループ活動を通して、チームの協力関係を発展させることが将来のキャリア形成に役立つ実現可能な方法であることが明らかになった。
2. 教師がまず世の中にどのような職業があり、どのような仕事の内容であるのかを学び、生徒一人ひとりの希望に沿ったガイダンスを行うことが、キャリア教育の第一歩として必要であることが明らかになった。
3. 特に過疎地域出身でマイノリティである場合、社会生活に慣れておらず、職業生活についての知識がないため、インターンシップに出す前に丁寧な指導が必要であることが明らかになった。
4. 研究の主な意図ではないが、松江高専と島根大学の学生との交流、模擬授業を通して、学生たちがアフリカでの社会問題（マイノリティやジェンダーの問題）に関心を持つようになった。

【今後の活用】

1. JICA 草の根協力支援事業への応募中であり、採択されれば、継続して現地でのキャリア教育の展開を支援していく。
2. 学会発表と紀要論文の投稿を計画している。